

令和6年度 学校経営方針

1 学校の歴史と地域

内田小学校は、創立147年目になる菊川市西部に位置する歴史ある小学校である。昭和53年2月28日には、開校100年祭記念行事が行われた。

内田小学校は、校歌と共に「大松の歌」が歌い継がれている。以前、内田小学校の校門に大きな松が昭和59年まで、学校のシンボルとして立っていた。その大松のことを当時の卒業生が歌として残し、今につながっている。樹齢100年の幹の切り株は、今も玄関に飾られている。

学区は、小高い丘と平地からなる地域である。菊川駅や菊川ICに通じる主要道からはずれた地域であるため、企業の進出は今のところ殆どない。

初代県知事「関口隆吉」氏や、加茂馬淵、本居宣長などに師事した「栗田土満」氏が在住していた地区であり、地区民は誇りに思っている。また、内田小の旧職員室を大切に地域で保存し、県の文化財に認定された。学校に対して協力的な地区民が多い。そのため、内田の名所や人物を集めた「内田100選」の制作にも学校に協力し平成14年に完成させるなど、郷土愛が強い地区である。

2 学校教育目標

地域に誇れる 地域が誇れる うちだっ子

菊西学舎の目指す教育目標「地域に誇れる 地域が誇る 菊西学舎」に準じて、本校の教育目標とする。菊西学舎コミュニティ・スクールは、令和6年度から実施される。小中一貫教育「学びの庭」構想のもと、「小中学校のたての接続」と「学校と地域社会のよこの連携」による教育を行っていく。

3 重点目標

なりたい自分に チャレンジ!

学校教育目標の目指す姿を達成するための合い言葉（行動目標）が、重点目標（短期目標）である。令和5年度末の教育課程編成会議で、下記の表のように児童の実態を再確認した。

周りに合わせる > 自分の考えをもつ。表現する。実行する。

よい表れとして出れば

- ①きまりやめあてを守る。
- ②ルールに従う。
- ③伝統を大事にする。

悪い表れとして出れば

- ①固定化した役回りにはまって、安きに流れる。
- ②自分で考えることを放棄し、責任逃れする。
- ③変革を嫌う。

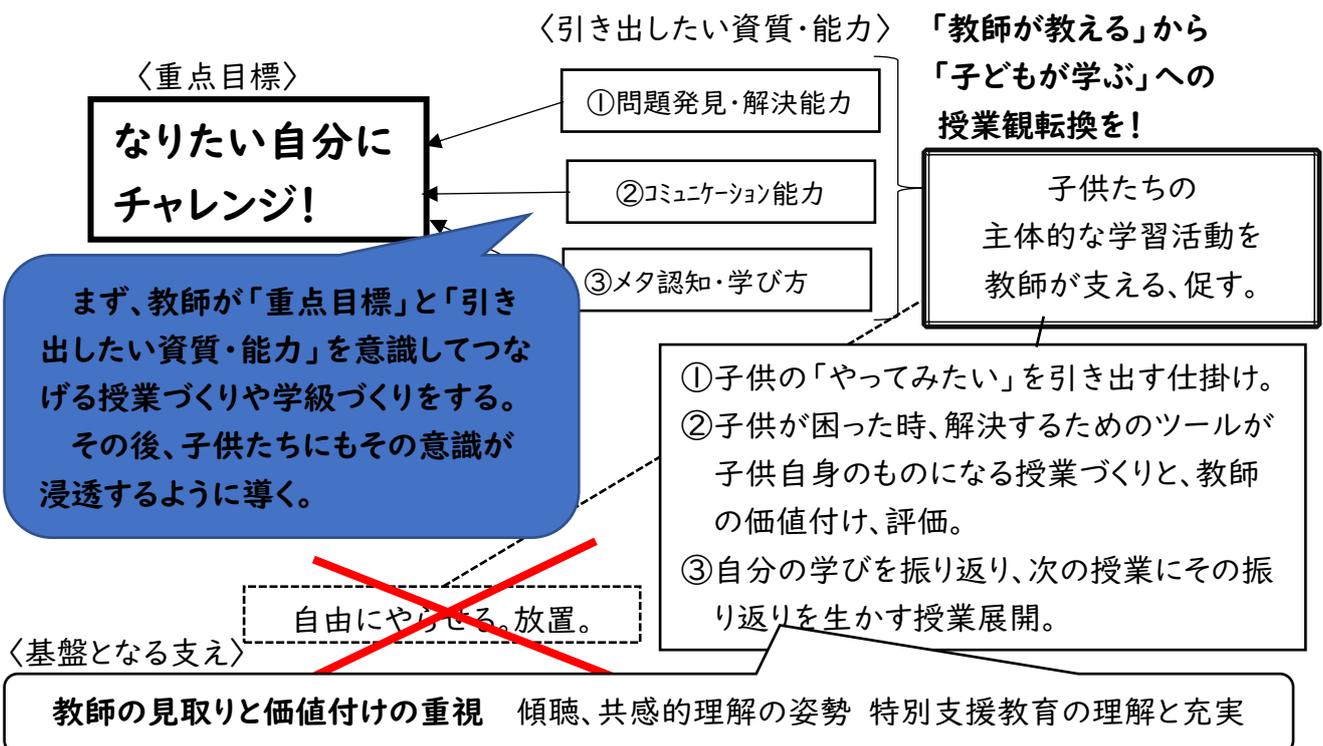
令和2～5年度まで、内田小の重点目標は「チャレンジいっぱい 笑顔いっぱい」であった。内田小では、「進歩しよう」「役立とう」とする意思や努力を『チャレンジ』と呼ぶ。令和6年度も内田小学校の児童に、まず育みたい事項である。

しかし、「自分の考えをもつ、表現する、実行する。」ことに消極的な児童が多く、「みんながやるからやる。」「周りがこう言ったから、そうする。」という行動に陥りがちであった。そうした姿勢から脱却させるために、個へのアプローチにより重点をおき、令和4年度より取り入れている「引き出したい資質・能力」をもっと積極的に教師が引き出し、教育活動の中で児童に用いさせることで、**児童が主体的に学び、自治的に学級づくりや学校づくりに参加する**ようにしたいと考えた。そこで、重点目標を「なりたい自分に チャレンジ!」と変更することとした。

『なりたい自分』という言葉を取り入れた意図は、**授業でも行事でも「振り返り」を重視し、価値付け、次につなげるサイクルをもっと鮮明にまわしていきたい**と考えたためである。引き出したい資質・能力とは、以下の3つである。

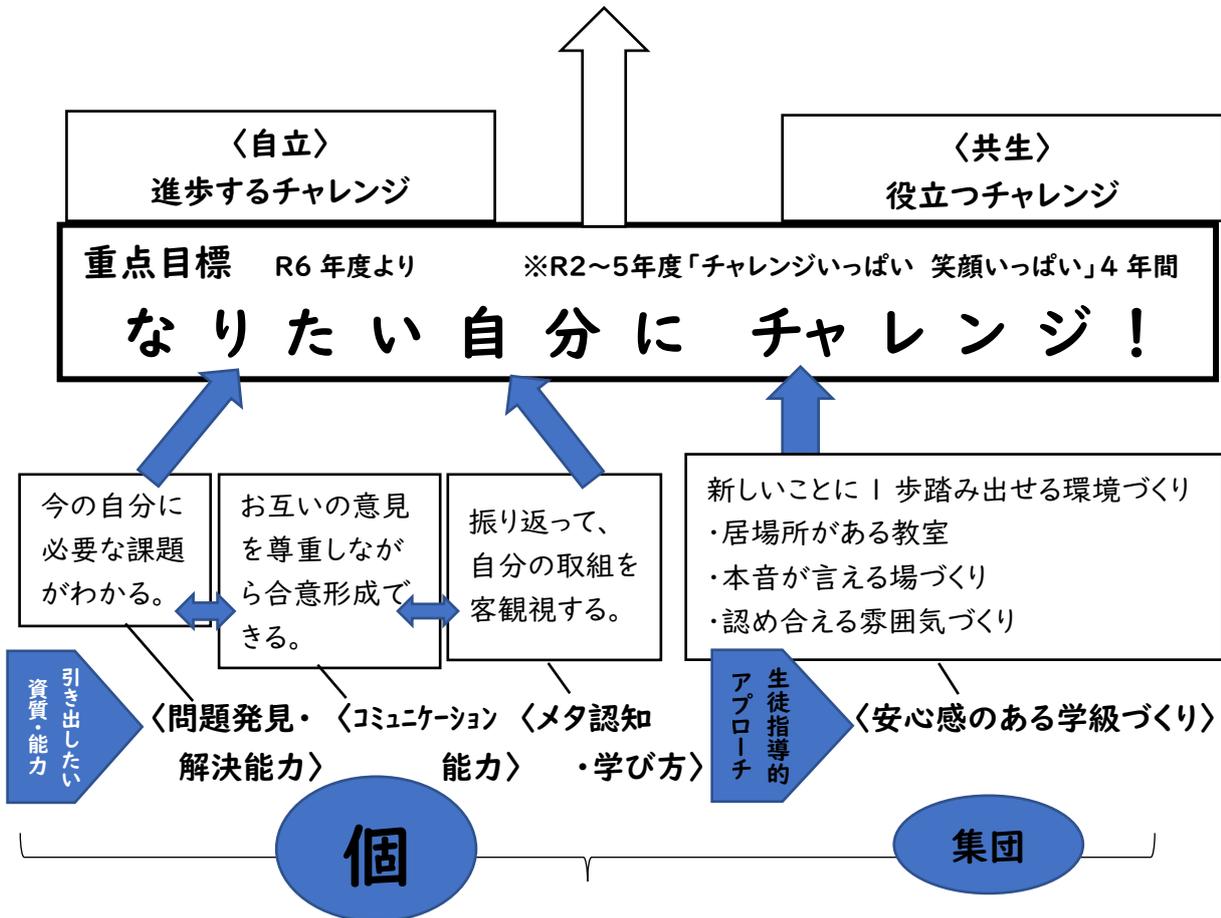
引き出したい資質・能力	問題発見・解決能力	<ul style="list-style-type: none"> ・今の自分に必要な課題が分かり、自分に合った目標を立てることができる。 ・いくつかの解決方法を試し、比べることで、よい方法を選ぶことができる。…など
	コミュニケーション能力	<ul style="list-style-type: none"> ・考えの異なる友達と、お互いの意見を尊重しながら合意形成することができる。 ・「わからない、何で、どうして」が言える。…など
	メタ認知・学び方	<ul style="list-style-type: none"> ・学習や活動を振り返り、自分の取組を客観的に捉えることができる。 ・自分の長所（または短所）が言える。…など

4 教師の意識転換 …「教師が教える」から「子供が学ぶ」授業へ。



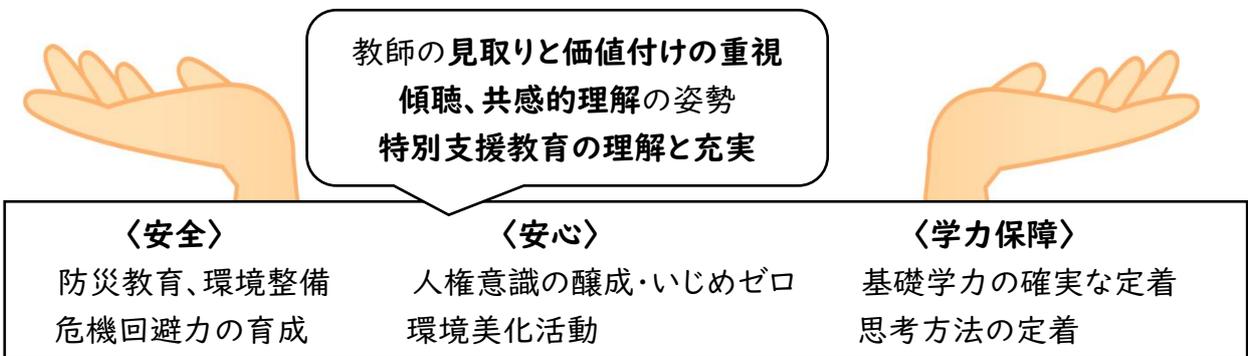
学校教育目標 (R5 年度から)
地域に誇れる 地域が誇れる うちだっ子

R5 までの準備期間を経て、R6 年度から学舎ごとのコミュニティ・スクール(小中一貫型)が開始。



全教育活動(授業、行事、特別活動等)で意図的に「子供が学ぶ」教育を行う。

児童の**主体的な学び**・**自治的な活動**を促し、見守り、支える教師



引き出したい資質・能力(問・コミュ・マ)を使いながら
 主体的な学びの姿勢や自治力を高めることを通して、
 「なりたい自分にチャレンジ!」の重点目標を達成する。

5 本年度、特に力を入れていきたいアンケート項目

数値目標（児童評価）	
① 学校が楽しい	93%
② 自分のめあてに向かってがんばって活動した。 〈問題発見・課題解決能力〉	90%
③ 話し合う活動を通じて、 自分の考えを深めたり、広めたりすることができている。 〈コミュニケーション能力〉	93%
④ 振り返りをして、自分の伸びたところや 直したいところがわかった。 〈メタ認知・学び方の能力〉	90%

6 学校経営の重点と具体策

学校の中心は授業である。子供が安心して学べる学級をつくり、生徒指導の機能した授業を共通実践する。生徒指導の基盤となる生徒指導計画を全職員で実践する。

指導のゆとりと充実を図るために、年間を5ステージ制から3学期制にする。

(1) 学級経営

①教師の人権感覚を磨き、傾聴・共感的理解を基盤とする学校をつくる。

②自治的集団へ向かうための働きかけを行う。

・あの子もリーダーで、どの子も輝く。

・任せて、陰から見守る。

（どのように準備をし、どこを任せるかは教師の見取りがものを言う。

任せられるようにするまでが肝心）

・ほめる、乗せる、感謝する（ほめることが他者への指導）

・セットでフォロワーも指導する。

③「やってみよう」の精神で、『チャレンジする場』『再挑戦する場』を与える。

(2) 授業の充実

①主体的・対話的で深い学びのある授業を目指し、自己理解・他者理解を深める。

②①を実現するために、「引き出したい資質・能力」を用いる授業づくりを行う。

③一人も取り残さず授業に参加できるように、個に合った支援の方法を学ぶ。

（特別支援教育の理解と充実）

(3) 地域連携

①内田（菊川市、静岡県）の人・もの・ことに学ぶ体験活動を通して、地域を愛する心を育む。

②菊西学舎（菊西中、横地小、加茂小、堀之内小、こども園）との一貫教育を進める。

(4) チームで対応

一人一人のニーズに組織（チーム）で対応する教職員集団を育成する。

◎困ったときに相談できる。 ・のりしろの働き ・感謝の心

・危機管理 ・働き方改革 ・校内研修 ・同僚性の構築

7 学校経営における危機管理と働き方改革

- (1) 最悪の事態に備えて最善の準備をする。
 - ・子供の命を最優先にした指導
 - ・問題の早期発見・早期対応、報告・連絡・相談、事後の確認・記録に努める。
 - ・福祉、医療などの関係機関との連携・協働し、専門家の指導の下、チームで対応する。
- (2) 不祥事を校内から出さない。
 - ・同僚性の構築
 - ・法令遵守「3ゼロ+2」の徹底、人権感覚、倫理観、使命感を強くもった服務
(3ゼロ：わいせつ、交通事犯、体罰 +2：情報厳重管理・適正会計及び事務手続き)
- (3) 質を高める教育予算の執行に努める。
 - ・優先順位をもって執行
 - ・複数の目でチェック
- (4) 限られた時間を効果的・効率的に勤務環境改善（タイムマネジメント）をする。
 - ・整理、整頓
 - ・SSSの活用
 - ・60分会議の設定
 - ・会議の終始時刻、タイムスケジュールの明記
 - ・超過勤務時間の20%減
 - ・ミライムとスズキ校務の効果的な活用
 - ・分かりやすい提案で文書削減
 - ・全職員、年間年休10日間以上取得
 - ・月1回の定時退庁日の設定
 - ・ICT環境整備、積極的な活用